

この時期、小・中学校では、学年行事や体験的な活動の準備が始められていると思います。こうしたことを進める過程では、リーダーとしての力を育てていく子どもがいたり、逆に、様々なトラブルが起きる中で、思った通りに準備が進まず思い悩んだりする子どもがいたりします。担任として、子どもの成長のよさをしっかりと認め、賞賛していくこと、悩みにじっくり耳を傾け、解決の方向を共に考えていくことを大切にしていきたいと思います。

<小学校>

雨の日を楽しくする遊びの工夫

雨が降って、外で遊べないことが多い季節です。教室や校舎の中で、子ども同士が関わり合える遊びを提案してみましょう。遊びを工夫する中で、ルールを守ることや、互いを気遣うことの大切さについて考え合う機会が生まれます。

雨で外遊びができないときは、紙ずもうやコマ回しをすると楽しいよ。



折り紙でおすもうさんを作って、みんなでトントン相撲をやろうよ。

じゃあ、僕は家から菓子箱を持ってきて土俵を作るよ。



みんなが楽しめるように、遊び方や後片付けのルールを話し合おうよ。



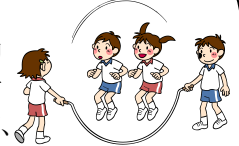
みんなが楽しめるように、遊び方や後片付けのルールを話し合おうよ。



学級づくりをキャリア教育の視点からみると

体力アップ大作戦で人間関係づくりを

低・中学年では、様々な運動（運動遊び）を楽しみながら行い、いろいろな動きを身に付け、その結果として体力を高めていくことを大切にしています。場を工夫し、用具等を準備し安全に配慮しながら、多様な動きを児童が楽しめるようにしてみましょう。



群れて遊ぶ体験は、子どもに友達と仲良く遊び助け合う心を育みます。また、人との好ましい関わり方を学んでいきます。ここに、小学校キャリア教育の重要な視点が含まれています。

※各校に配付した長野県版運動プログラムのDVDの映像を参考にしながら、「クマさん電車」「リズムに合わせてカンガルー」「人間知恵の輪」など多様な動きを体験してみましょう。

<中学校>

子どもに届く教師のこぼ

学級の中に心を閉ざした子どもはいませんか。こうした子どもの心を解きほぐすには、何かその子の心根につながるこぼが必要で、それは千差万別、子どもによって異なります。教師のこぼをどういう場面で発するのかということの次の例から考えてみます。

担任の指示従わないやや反抗的な子ども

担任は、この子どもに対して、気になることがあると、いつもは学級の仲間の前で注意していた。ある時、廊下呼び出し、さりげなく気になる点を指摘した。すると

小さな声だが「はい」と返事をしたのです。

どんな子どもでも、みんなの前で注意されるのは気持ちの良いことではありません。子どもに届く教師のこぼは、内容だけではなく、発する「場」や「タイミング」です。

少し意識してみませんか。



学級づくりをキャリア教育の視点からみると

大縄跳びで生徒の主体性を引き出す

良好な人間関係を育むための一つの方法として大縄跳びを紹介します。



大縄跳びは、運動感覚を養うことはもちろんですが、人間関係づくりにもつながります。仲間と目標を決め、それに向けて作戦を考えたり、練習を工夫したりする中で、学級としての一体感が生まれます。そこで、目標の決め出し方の例を示します。参考にしてみてください。

- ・ クラスマッチ形式なら順位や賞から決める
- ・ 感動を味わう等、情緒的な側面から決める
- ・ 練習の回数や具体的な跳ぶ回数から決める

目標が具体的に定まることで、生徒は友と協力しながら、自分たちで何かを成し遂げようと主体的に動き出します。ここにキャリア発達の大切な育ちが期待できます。

※長野県教育委員会のホームページで他校と記録を競い合うことができます。ご利用ください。